

◇『ウクライナ問題から見える広報戦略』

理事 木田洋一

「戦争広告代理店」という本をご存じでしょうか？

2000年に放送された『NHKスペシャル 民族浄化～ユーゴ・情報戦の内幕～』の番組をもとに出版され、講談社ノンフィクション賞と新潮ドキュメント賞をW受賞した話題作で、私もすぐに読みました。

内容は「情報を制する国が勝つ」。ユーゴスラビア紛争で、セルビアが「民族浄化」を行っていると報道されて世界中に衝撃を与え、国際世論をセルビア非難に向かわせました。実はアメリカの凄腕広報マンが関わった戦略で、本書はこうした国際世論を誘導する情報戦を描いたものです。

ウクライナのゼレンスキー大統領を中心とした情報発信力、方法の的確さを見て、私はこの本を思い浮かべました。彼自身がタレントであるだけではなく、大手制作会社の社長でもあると聞いて、大統領自身がこの本の広報マンのようなノウハウも知識もあったと納得しました。

みなさん、そんな戦争のような大問題と自分たちの広報には「関係ない」と思っていないですか。実はそこには、お金もなく小さな側が、大きな相手にどうやって情報発信で勝つか？のヒントが一杯あります。

誰でもが情報発信できる時代だから新しいノウハウがあることには、みなさんも気づいていると思います。ただ、だったら自分たちの情報発信にこのノウハウをどう利用するかと考えていますか？

それだけではありません、人々の心に突き刺さるゼレンスキー大統領の映像を使い、相手、状況に合わせ自分の言葉でしっかり喋る発信でどれだけ心に響く力が生まれているのか？を考えて欲しいのです。先日のセミナーでも動画は雰囲気まで伝えるとお話しましたが、まさに大統領の人柄まで伝わってきていませんか。

これは、動画の特質を理解しているからでしょう。

当初「元々お笑いタレントだった」と言っていた日本のメディアもいましたが、私は「笑い」というのは人々の気分、思いを読み解いているから生まれる超一級の能力だと思っています。これらはすべて「広報」の原点です。

もちろん、戦争の悲惨な状況を題材にすること自体残念で辛いことです。

日々の報道で戦争について考えることが一番大事なのが当然ですが、少し情報発信という目でも、ウクライナ問題の情報発信を見てみませんか？

◇『新聞はYouTubeに近い?!』

代表理事 竹原信夫

◎SNSに力を入れる

最近、YouTubeなどSNSに力を入れています。Twitter、FB、YouTubeにも積極的に取り組んでいます。中でもYouTubeは毎月、毎週で動画配信しています。だいぶ慣れてきました。それでも、専門家からいろいろ指摘され、修正しながら進めています。

◎媒体で伝え方が違う

ボクはもともと新聞記者。文字での発信が得意です。だから、テレビや YouTube などの動画発信は経験も浅く、悪戦苦闘しています。

例えば、同じ紙媒体でも、新聞記者の書き方と雑誌記者の書き方は全く違います。

◎面白いことから順番に

テレビの仕事を始めようになって、媒体により伝え方が大きく変わることに気づきました。

一番の違いは、新聞は大事なこと、面白いことから順番に書きます。最初の段落をリードと言って、そこに一番書きたいことをまとめて書きます。

◎テレビは後出し

リードの 100 文字が“命”です。後の文章が紙面都合で削除されても、この 100 文字で見出しが立てられ、読者が理解できる内容に仕上げます。だから、新聞は最初に全てを明かします。

テレビは違いました。大事な面白いものから順番に見せるメディアではありませんでした。逆に、面白いものは後にして隠されます。

◎テレビと違う YouTube

最後にタネ明かしをされて「こんな面白いものでした」と。何やらか？と興味をもって見ていたら、たいしたことなく裏切られることよくあります。

テレビと同様 YouTube も同じ動画です。でも、何か違うなと感じておりました。先日、テレビのディレクターと話す機会があり、分かりました。その答えは明確。「SNS 動画は最初から面白いことバンバン見せませす。そこが大きな違いですね」と。

◎テレビはモザイク

確かにそうです。YouTube はテレビ番組のように洗練されていません。素人っぽさが残っています。ヒカキンさんは、最初から面白いこと、やり続けています。

ついつい釘付けになって見てしまいます。テレビはモザイクを入れるなど、見せずに後ろへ引っ張ってチャンネルを変えさせないようにされます。

◎嫌らしく思える

視聴率が大事、チャンネルを変えさせないためです。ちょっと嫌らしく思えることもあります。CM 前は特にその傾向が強すぎます。ボクはどうせ大したことないと、あえてチャンネルを変えます。

つまり YouTube 発信は、新聞の書き方に近いのです。最初からネタばらしをして発信する手法は、新聞と全く同じ。最初が肝心です。動画と文字の違いだけでした。

◎新聞記者は YouTube 派？

それで少し気が楽になり、構えずに YouTube にも取り組めるようになりました。ボクの勝手な理解ですが、新聞記者はテレビより YouTube の相性が良いと思いました。